とかち新聞
主筆 松山明
（発行所）北海道足寄郡足寄町 とかち新聞社　電話㊀2551番
（毎月5の日発行）　1カ月200円　1カ年前納の場合2,000円

ついに三巴戦へ

本別町長選は激戦のかまえ

五月に迫った本別町長選は、これまで四期出馬はあり得ないとされてきた水元町長の立起表明により、井出商工会長、矢野農業共済組合参事との三巴戦は決定的となり激戦模様をのかまえですが、その立起表明の場を迫ってこれを忠実に録音してみました。

（本紙の複写、転載を禁じます）

井出氏は超党派で

本別町の「町民の声を広める会」の結成大会は二十二日午後二時三十分から本村公館二階大ホールでひらきました。

この日は今年に入ってはじめての大雪、大吹雪で農村地帯は自動車も通らないというのに、開会前にすでに三百名近い会員がつめかけその後続々と参会者がふえて超満員の盛況ぶりでした。

大会は高橋邦雄氏の司会で、世話人代表の安久律清人氏のあいさつがあって、議長団に本村八重三、石上十一、水下とらえの三氏が推されて議事に入りました。

まず経過報告のなかで安久律氏は四十九年に「町を育てる会」が設立され、井出さんが推薦されて（町長候補に）なぜおりたのか、井出利一郎氏のご両親がなくなり、さらにまた本別沢の実弟が命旦夕の重態で、一家にとつては悲嘆のドン底にあり、親の喪に服している同志をみて私は身のかきむしられる思いがした、そのとき実は賀陽さんの方から作間さん、亀、野崎さん、合板の多田さん、こういう人達に水元さんから呼び出しがあつた、これは賀陽さんからか水元さんからかわからないが、ロビンスで重要な会談があるからきてくれというのであつた、そのとき水元町長は五分ほどおくれて入つてきて「いやあお待せしました」といつて私の隣りに坐ると同時に「自分の政治信条としては町長というものは十年、十二年やれば結構一杯で、それ以上やるものでない大臣もそうでまして私の年令と健康を合せて考えた場合、私はこれ一期でやめますからよろしくお願いします」と膝に手をついて丁重なあいさつがあつた、これは天地神明に誓つての事実で、膝に手をついて今期かぎりでやめますと約束したので、心のなかで井出さんはいまこういう時期だから安心して子としての道をふみよいと思つた、こういうことで「町を育てる会」は流れたというか残つたというか、そういう形で四十九年はおわつたが、その後の本別町政はみるにたえない、この町長がウソをいうわけはたかろうとかたく信じている、いまウリサがあるがあれはウソサだと思つている、町長がウソをつけば本別町の教育はどうなる、つぎの町長はどういう人を選ぶべきかを考えた場合どうも町長室のシキイが高い、世民と話しあえる町長さんがほしい、それに加えて町長職に専念するために公宅を建てて三百何十万円もする車を買つて高い給料の職員に運転させて行き帰りするのでなく、町長公宅にいてみなさんいつでもいらつしやい、と気楽に話しあえる町長であるべきで、それには町民党でいかねばならない、超党派で各界、各層の方々と話し合い、前の二町を育てる会」は自民党員いともいわれた、いろいろな政党の方々の意見をとり入れて「町民の声を広める会」とした

との説明があつて、会の綱領、運動目標、会則などを審議、決定して各地域からの選挙委員によつて

会長　野崎　武
顧問　江見幸作
顧問　津村八重三
顧問　碧海　弘
顧問　木下とらえ
顧問　門田三男
顧問　加藤信男

幹事長　中田義雄

のき氏を推薦し承認となりました。

役員を代表してあいさつに立つた野崎会長は「超党派の会の会長に推された以上は自民党支部長を辞任して公平な立場で全力投球であたりたい」との決意を示しました。

ついで町長選対策にうつるや会場からいつせいに町長候補には井出利一郎氏をとの発言があり、満場一致でこれを決定しました。

ここで満場の拍手に応えて井出氏が登壇して

本日結成された「町民の声を広める会」の大会において町長候補としてご推薦を頂きその責任の重大さを痛感しており、本日再度ご推薦をうけた以上はいかなることがあろうとも前回のアツをふまぬ固い決意であり、町議三期十二年、商工会長二期八年、自民党支部長四期八年のご支援、ご協力を頂いたが、町長選挙については、イデオロギーを抜きにして町民党的立場ですつ様になつて出馬する決意であり、基本的な考え方は

一、地場産業を育成して商工業、農商業、林業の調和をはかる

二、営林署の統廃合、あるいはへき地郵便局など公的機関の統廃合を阻止する（商工会長の立場で昨年暮の三日間、本名代議士のはからいで林野庁の営林局長官、秋山農林大臣に陳情、陳情した結果、本別営林署は廃止しない存置するとの確約を頂いた）

三、過疎対策を強力にすすめ、自動車高速道路の新設とジャンクション、インターチェンジの設置をはかり、大企業の誘致を可能にする

四、商工業、特に小規模企業の育成をはかるため大型店進出防止の町条例を制定する

五、あつて私どもが運動をして仙美里の農業講習所を道立農業大学校に昇格して頂いた道内ただひとつの大学校との経済、文化の交流をはかり、近代的農業後継者の育成の場として町をあげて協力していく

と述べたあと「以上はスローガンの一部を申しあげたが、くわしくは政策書の運動目標に書いてあり、私のモットーとするところは町民だれでも気がるに陳語、進言のできる対話の町政と血のかよつたあたたかい行政の実現であります」と訴えて立起表明のあいさつがあり、このあと大会後援と岡崎克雄氏の発声で会と井出氏の万才三唱があつて午後三時三十五分に閉会しました。

水元氏は町議会で

本別町議会の第一回臨時会は二十五日午前十時すぎからひらき（欠席は松下一郎、佐野鶴の両議員）会期を一日として、はじめに水元町長から

先般、天野議員から質問のあつた高校付近の道々問題は道路として土木現業所の交渉が十二月十七日に最終的に決定し、施行交渉によつて原案どおりに十八日に調印が完了した、町民各位のご協力にお礼申しあげる、こんごの道々改良工事はまだ公表されていないが、国道別―本別停車場線の新路改良が九千九百万円、その先の改良工事は六千五百万円の予定で、勇足―本別停車場線についても継続は九億五千万円で本年度から二カ年で完了する

との報告があつて議事に入り、議員報酬の改正案を上程したところで、天野晴清議員の動議で協議会へうつすことになり、議員控室で一時間二十分にわたつて協議しましたが、昨年の四月にさかのぼつての報酬引き上げに作間勝雄、井出利一郎、野崎武の三議員が反対したために時間がかかつたもので、本会議を再開して特別職などの報酬、給与は

議長	十五万円
副議長	十万四千円
委員長	九万三千円
議員	八万六千円
町長	五十二万円
助役	四十一万円
収入役	三十六万円
教育長	三十七万円

にそれぞれ引上げ、それにともなう一般会計予算の補正を質疑もなくいずれも原案どおりに議決したあと、島居健太郎議員から水元町長の政治理念についての所信質問がおこなわれました

島居氏　現在、町内で昨年末からボツボツ町長選へ向けていろいろな動きがあり、一部支持者のとりつけをおわつた、あるいは後援会の発足をみた同僚議員もいる、三期十二年間、あなたが町政を担当して議会がすべて同意してきた、今回の町長選において良識ある町民はただ単なる勢力争いは御免だといつている、水元町長は三期十二年で引退するのではないかと考えている方々もいるので、もう一度出馬すると声明して頂きたい

水元町長　みなさんのご支援によつて三期十二年、任期は五月でおわるが、特殊のご協力に感謝申しあげる、島居議員の質問について、町長に出るか出ないかは個人が決めるものではなく町民が決めるものであつて、三期十二年はひとつの区切りで、年令的にもできればご遠慮の予定だつたが昨年の春いろい後援会めみなさん、町内の団体、組織機関が半年以上にわたりもう一回との要請をうけ、昨年末に至りさらに強くなり四期をやらざるを得なくなつた、十二月に要請に応えて四度立候補を決意した、十二年間の実績に立ち、総合十カ年計画はあと四年間で完了するので要請に応えて全力をふるつて町政を担当したい

作間氏　自分の意志ではなく支持者の要望によるというが、おきましたいのは四年前に立会した通報（本元、賀陽、作間、安久律、野崎、多田氏の六者会談で水元氏が四期出馬はしないと言明したこと）により他に立候補者が出るのは止むを得ないと認めるか

水元町長　町長も議員もやはり町民の総意で決めるので個人的問題で決めるべきでない、どなたが立候補しようがとやかく申しあげない、町民のみなさんが決定してくれる

天野氏　ルールははずれるかもしれないが、町長の心境をきいて甚だ勝手だが年長であり、四十一年に町政の大混乱のなかで町民の要望に応えて立起され町政を担当され、十二年間の功績は町はかつて再建団体に転落したが二億円からの財調貸金を貯えるに至つた、後継者を才一に留意され激戦と予想されるので、水元町政の総仕上げをされるよう激励を申しあげる

などの発言があつて、正午すぎに閉会しました。

ニュースを斬る

困つた共産党

◆…日本共産党は自由と民主主義の擁護にひらかれた政党であるとして、まるで自由民主党と同じような政党でもあるかのように、ここ年間の厚化粧ぶりをみせていましたが、このたびの宮本顕治委員長の五十年来の同志である袴田里見前副委員長を党から除名したことによつてその正体がバクロされました。

◆…これはかつて大正時代の共産党スパイ・リンチ事件で宮本氏がスパイを最初した張本人であることを週刊誌に発表した袴田氏がひやつてしまうがないのでしようが、かりに殺人をしたとしても刑法上は神妙なのだからものごとは国民の前はコソコソと逃げかくれをせずに堂々と後援天皇廃止を主張すべきだし、したがつて現行憲法反対の立場を明らかにすべきなのに、それをしたのでは論旨には不利なので、心ならずも平和憲法擁護をとなえているのではないでしようか。

◆…ゴ愛される共産党ゴとしてスツカリ猫なで声になつてしまつたところに、これを飛びこえて過激派集団が侵出見逃しているのかもしれません。

◆…国会の開式前に天皇が疲をみせると共産党議員はコソコソと逃げかくれをせずに堂々と後援天皇廃止を主張すべきだし、したがつて現行憲法反対の立場を明らかにすべきなのに、それをしたのでは論旨には不利なので、心ならずも平和憲法擁護をとなえているのではないでしようか。

◆…ゴ愛される共産党ゴとしてスツカリ猫なで声になつてしまつたところに、これを飛びこえて過激派集団が侵出見逃しているのかもしれません。

和洋酒　食品　陶器
久保商店
久保与一郎
足寄町東一区　T　五―二六五三

味自慢　みなさまの
御寿司　江戸つ子
黒川利喜弥
足寄町南一区　T　五―二〇九八

寒中お見舞申し上げます

有限会社　本別印刷所
取締役社長　新津二良
本社　本別町北二丁目　T⑩二一五八
足寄印刷　足寄町南三区　T⑭二二三五
陸別印刷　陸別町栄町　T　三〇一一

小学校三年生以上の学習塾
学研全国チェーン教室
学研スタディ学院
教室長　川岸新一　講師　光藤恵美
足寄教室　込山デンキ内　T⑭二一一二
陸別教室　若葉町　T　二三七九
自宅　足寄町北五区　T⑭二八〇九